



※『行政自治会だより』は古河市公式ホームページ（市民協働課）からも  
ご覧いただけます。

回覧

# 行政自治会だより

令和6年2月1日発行

第37号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 湯本 豊

## 新年のごあいさつ



古河市行政自治会

会長 湯本 豊

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、昨年中は古河市行政自治会の活動に対し、ご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この約3年、新型コロナウイルスの影響により様々な地域活動が制限されて来ましたが、昨年5月に新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5類へ

引き下げられ、各地域において夏祭り等のイベントが盛大に開催されました。

行政自治会においても10月下旬に4年ぶりとなる視察研修を実施し、自治会・行政区の代表者が地域の枠を超えて、地域活動等について情報交換を行いました。

今後も会員の皆さまが安心安全に生活できる地域づくりを進めていくには、各自治会・行政区を中心とした地域コミュニティの力が重要となりますので、会員同士のコミュニケーションおよび親睦を深めていただくことをお願いいたします。

結びになりますが、新しい年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

## 市民総ぐるみ清掃

令和5年11月19日（日）、今年度2回目の「市民総ぐるみ清掃活動」が古河市の各地区で行われました。私が住む常盤台自治会では、大きく3つの区域に分けて自治会役員の担当者を決めて、清掃活動を行っています。一つ目は四季の径（鍛冶町通りから北側の区域）、2つ目はJR高架下及び古河一中正門前通り、3つ目はJR宇都宮線と国道4号線の高架橋沿いの側道がメインとなります。側道では草木が生い茂り、手にカマを持って草取りを行いきれいにします。11月1日の広報配布時に清掃活動のチラシを全戸配布しています。道路では雑草取りや落ち葉拾いなどが主な作業で、集めた草木はポリ袋に入れてゴミ出しの集積所へ置きます。作業は1時間ほどで終了して粗品を配布して終わりとなります。清掃用具や集めたゴミの搬送にはリヤカー2台を使っています。

（広報委員 関 一郎）



線路沿いの側道もきれいになりました

## 市長と語ろう まちづくり

令和5年11月13日（月）から26日（日）にかけて、オンライン開催を含めた9会場で「令和5年度 市長と語ろう まちづくり」が開催されました。

針谷力市長から、「まちに活力、人に安心、魅力あふれる都市づくり」をテーマに第2次古河市総合計画第Ⅱ期基本計画の取り組みと、第Ⅲ期基本計画へ向けての概要が語られました。

16日（木）に開催された、サンワックスホールスペースU古河の会場には自治会長ら67名が参加。開演前に古河市のプロモーションビデオ「こがでくらすと」が放映されました。

針谷市長は第Ⅱ期基本計画（令和2年度～5年度）を①市民協働②健康福祉③教育文化④産業労働⑤生活環境⑥都市基盤⑦行財政、の章に分けて、わかりやすく説明を加えました。ヤングケアラー・生活困窮世帯の子どもへの支援策では、県内初のヤングケアラーコーディネーター採用による相談や支援に言及。賑わいあるまちづくり推進策ではホリプロとの連携や歴史的につながりが深い鎌倉市と文化・観光協定を締結、さらに、大堤地区における「新たな賑わい拠点」整備

を取り上げました。

参加者からは、来年通常開催される花火大会や提灯竿もみ祭りをより楽しくするために、よりいっそうの創意工夫や来場する観光客を古河市内に滞留させ、経済効果を狙った対策の必要性が提案されました。また、大型ショッピング店舗の誘致促進、第7小学校近辺の通学路の修繕・整備などの要望が出されました。

（広報委員 大澤 一男）



市長と市民の意見交換風景（ユースセンターKI 防水）

## 古河市行政自治会視察研修

令和5年10月27日（金）・28日（土）の2日間、行政自治会視察研修を60名の参加者を得て、福島県にて実施しました。

研修は、宿泊先の会場で行い、講師に大河内喜男様を迎え講話をいただきました。

大河内様は、2011年に発生した東日本大震災で自宅が被災、避難所生活から借上げ住宅、災害公営住宅へと移り住む中、5年間にわたり自治会長を務めました。現在は、「いわき語り部の会」に入会し、震災体験をもとに講話を行っているそうです。

講話は、震災当日から始まりました。3月11日は外出中で、家族と連絡も取れなかったため、自宅に向かおうとしますが、車が渋滞していて帰宅できなかったため、助かったということでした。

そして、避難生活が始まりますが、避難所は他地域の人との集団生活であり、その生活が長引くにつれ、車上荒らしや避難物資の奪い合い、さらには、衛生問題等が発生したそうです。震災被害者の6割以上が避難せず、特に高齢者が多かったそうです。また、津波の一波の後に、自宅に帰り、二波・三波で犠牲にあつたとのことでした。

自ら被災し、突然、日常生活を奪われてしまった大河内様の講話から、私達は、命を守るためには、日頃から災害に備えてハザードマップ等を参考に、家族で避難の方法や避難場所を確認しておくなど、避難の重要性を考える大切さを学ぶことができました。

（広報委員 小林 浩二）



震災前



震災直後



研修風景





## 第6地区防災訓練を実施

令和5年10月22日（日）午前10時より第6小学校の校庭及び体育館に於いて、第6回防災訓練を行いました。前回の第5回目は平成30年の10月に行いましたが、コロナウイルスの影響で長い間実施していなかったため、「5年ぶりの防災訓練」となりました。

当日は天候に恵まれ快晴の中、総勢200名の参加者があり、大変有意義な「防災訓練」となりました。古河消防署、女性消防団、第七分団の皆様のご指導により4グループに分かれ、校庭では「消火器による消火訓練」と煙用テントの中での「煙体験」を行い、体育館ではAEDを使用した「心肺蘇生訓練」と、NTTとの協力による「災害伝言ダイヤル」の使い方などを指導して頂きました。訓練については1工程で約20分程度の実習訓練を行い、午前10時20分から正午まで自治会員の皆様が訓練を行いました。今回の防災訓練で災害が発生した時に、それに対応する行動が大切であることを改めて実感しました。（広報委員 関 一郎）



各自治会の参加者



消火器の訓練



煙体験



心臓マッサージの訓練

## 大盛況だったマイステージ（総和地区）

令和5年11月5日（日）、ユースセンターKI 防水ホールにおいて、行政自治会総和地区主催のマイステージが27組の出演者により、5年ぶりに盛大に開催されました。

このマイステージは、38年前の昭和60年「総和町産業祭」の1つのコーナーとして、総和町区長会の主催で、現在のイーエスはなもも体育館を舞台に第1回大会が開催されました。平成10年まで第14回を数え、平成11年から第1回「関東ド・マンナカ祭り」と名称が変更となり、マイステージコーナーも第1回大会と銘打ちました。平成30年の第20回まで開催しましたが、新型コロナの影響等で昨年までの期間が中止となっていました。今年から再開され通算35回目となります。

今年は、開催会場を変え単独開催となりましたが、第8地区～第14地区の皆さんの「歌と踊り」等が披露され、満員の観客は各行政区からの出演者に大きな拍手を送っていました。

最後は50名に賞品が当たる抽選会もあり、当たりくじを発表する司会者の声に一喜一憂。当選者は、満面の笑顔で賞品を受け取り嬉しそうでした。出演者と観客が一体となり、親睦・交流が十分に図られた一日でした。

（広報委員長 長濱 忍）



古河甚句（踊り）



仁川エアポート（デュエット）



アロハオエ（フラダンス）



満員の観客席

# 市内歴史散歩（第31回）～平安時代末期の関戸の宝塔～

JR古河駅からの十間通りを東へ進み、県道境間々田線の関戸交差点を右に折れると間もなく関戸田園都市センターに着きます。その裏の不動堂の左脇にこの「関戸の宝塔」があります。古河市指定文化財で、現在は覆屋で覆われています。

総高2mほどで、大谷石製の仏塔です。写真にあるように、上から相輪、笠、塔身、礎石からなっており、仏教の石塔の分類では「笠塔婆」に入ります。笠には、木造建築風の精巧な造作があり、その優美さと芸術性は、造られた時期の中では、全国でも他に例を見ないものです。

塔身には浅い薬研彫りで、周囲に大きな種子（梵字で仏教の仏を示す）が4つ彫られており、その中心は大日如来です。ここから造立者は大日如来、つまり、真言宗の信者であったと見られます。



関戸の宝塔全景



塔身の梵字と銘文

これほどの石塔は、当時の技術ではこの古河地方の仏師では作れません。おそらく京都の仏師が造立者の求めで古河地方へやってきて造ったものと見られます。

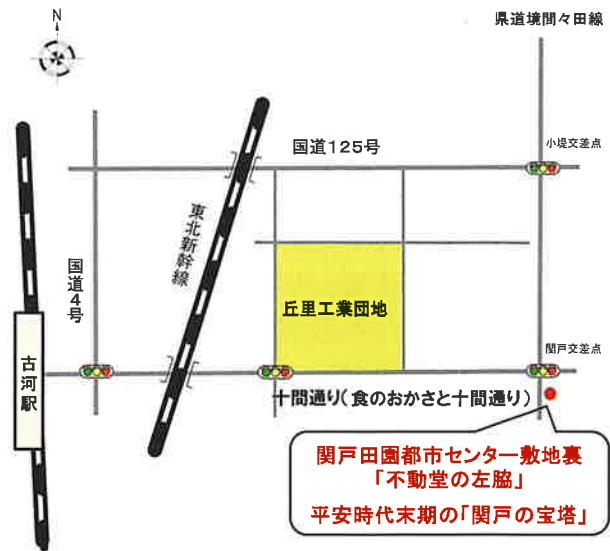
注目されるのは、大日如来の下に7行にわたって、造立の趣旨や名前、年月日が彫られていることです。風化が進んでいて解読が難しいのですが、最新の研究では、造られた年は「仁安四年」（1169年）で、「宗治」という人物が、父母の「成仏」のため建てた供養塔のようです。

仁安四年といえば、平安時代の終わりごろです。ちょうど平清盛の平氏政権が京都にあった時期で、全国に武士が勃興した時代です。「宗治」とは誰か、はつきりしないのですが、古河地方には当時の武士で下河辺氏があり、古河はその所領の下河辺荘の一部でした。

祖の行義は、清盛時代の京都で、源氏一族の源頼政に仕えて京都に行っています。行義が父母の供養に京都の仏師を招いて建てた可能性があります。「宗治」は行義の別名なのかもしれません。

仁安四年銘の石製の笠塔婆は、現在残っているものでは全国で最も古いものです。また高い芸術性があり、市内でも貴重な文化財の一つです。

（元総和町史編纂専門委員 内山 俊身）



## 編集後記

今年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活気旺盛になって大きく成長し、形が整う年だと言われています。また、たつ（竜、龍）は十二支の中で唯一空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きくかかわる年と言われています。市民の皆さんには良い年となるようご祈念申し上げます。  
（広報委員長 長濱 忍）

## 行政自治会広報委員会

|     |       |       |  |
|-----|-------|-------|--|
| 委員長 | 長濱 忍  |       |  |
| 委員  | 鶴見 尚司 | 関 一郎  |  |
|     | 大澤 一男 | 白戸 正  |  |
|     | 知久 貴  | 梅津 信男 |  |
|     | 増田 清次 | 小林 浩二 |  |

